

## 平成28年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

### 「第2回はなやままるごとフェスティバル」事業報告書

- 1 趣旨 国立花山青少年自然の家を広く県内各地の方々に開放し、大自然の中でのさまざまな活動を通して施設の理解を図るとともに、家庭教育支援の一助とする。
- 2 主催 くりはらから体験の風をおこそう 実行委員会  
(事務局 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家)
- 3 共催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家
- 4 後援 宮城県教育委員会 栗原市教育委員会 河北新報社 ミヤギテレビ
- 5 期日 平成28年10月22日(土)～10月23日(日)
- 6 場所 国立花山青少年自然の家
- 7 参加について  
①参加対象及び人数 家族〔22日(土) 宿泊300名、23日(日) 日帰りは制限なし〕  
②参加状況 宿泊：家族72組268人 日帰り：610人
- 8 設置コーナーについて  
【10月22日(土) 夜間】  
①遊びリンピック ②ハロウィンOL(ボランティア企画) ③たき火ナイト  
  
【10月23日(日) 日中】  
①絵葉書、しおり、缶バッジづくり ②丸太切り、竹とんぼづくり ③わたあめづくり  
④幼児向けふわふわ ⑤いわなのつかみ取り、塩焼き ⑥アウトドア体験  
⑦宮城のこどもたちの富士山登山報告 ⑧カブトムシゆかりさんの昆虫教室  
⑨幼児向け生活力チャレンジ ⑩乗馬体験、ミニ動物園(山形最國村塾、一迫鈴木牧場)  
⑪ジオパーク実験(栗原市ジオパーク推進室) ⑫ネイルアート(ネイルサロン コア)  
⑬ツリークライミング(一迫林業研究会) ⑭キャンドルづくり(栗原市西部地域活動支援センター) ⑮ストラックアウト(国立那須甲子青少年自然の家)  
⑯森のキーホルダーづくり(岩手県立県南青少年の家) ⑰スーパーボールロケット(国立磐梯青少年交流の家) ⑱スリッパ卓球(国立岩手山青少年交流の家)
- 9 企画・運営のポイント  
①家族利用が可能であり、家庭教育の一助となる施設であることを多くの方に理解してもらうために、相部屋利用に理解を促し多くの家族を宿泊できるようにした。  
②地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動を推進し、多くの人に体験活動の楽しさ、大切さを知ってもらうために、地域団体、公立、国立施設に協力を依頼し、できるだけ多

くの体験コーナーを設置した。

③本施設で活動する学生ボランティアが、より自主的で活発な活動ができるようにボランティア企画を実施する機会を設けた。

## 10 日程について

	10月22日(土)		10月23日(日)
15:00	受付	6:30	宿泊者起床
16:40	宿泊者インフォメーション	7:30	朝食・部屋清掃
17:30	夕食・入浴 夜間イベント	9:30	開会式
22:00	就寝	11:30	利用者300万人記念式典 宮城の子どもたちの富士山登山発表
		15:30	終了

## 11 活動の内容について

### 【10月22日(土)】



〔遊びリンピック①〕



〔遊びリンピック②〕



〔ハロウィンOL①〕



〔ハロウィンOL②〕



〔たき火ナイト〕



〔夜の食事風景〕

### 【10月23日(日)】



〔開会式〕



〔記念式典〕



〔ツリーライティング〕



〔乗馬体験〕



〔ネイルアート〕



〔絵葉書・しおりづくり〕



〔スーパーボールロケット〕



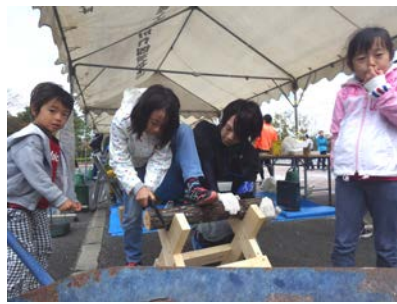
〔幼児向けふわふわ〕



〔アウトドア体験〕



〔竹とんぼづくり〕



〔丸太切り〕



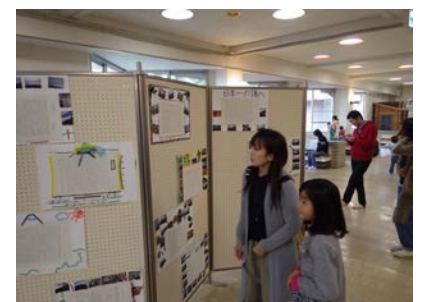
〔ミニ動物園〕



〔富士山登山者発表〕



〔昆虫教室〕



〔富士登山コーナー〕



〔ジオパーク実験〕



〔幼児生活力チャレンジ〕



〔いわなつかみ取り・塩焼き〕



〔スリッパ卓球〕



〔キャンドルづくり〕



〔わたあめづくり〕

## 12 成果と課題

### ①満足度

〔宿泊者〕とてもよかった：82%      よかった：18%

〔日帰り〕とてもよかった：57%      よかった：33%      あまりよくなかった10%

### ②成果

- ・今年度第2回目となる事業であったが、昨年度の家族1部屋から相部屋に変更することで宿泊体験の人数を増やした。相部屋への理解を促し、宿泊者の人数を増やすことで、たくさんの参加者に恵まれ、多くの方に自然の家の利用について理解を得ることができた。
- ・地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動を推進するために、外部協力によりできるだけ多くの体験コーナーを設けることで、数多くの体験活動を提供することができた。的を絞った広報により、栗原、大崎の近隣地域だけでなく、仙台をはじめ遠方からの来場者に恵まれた。アンケートの内容や参加者の様子から、多くの方がたくさんのコーナーを楽しみながら回ったことがうかがえた。参加者が施設に滞在する時間が長く、長時間にわたってイベントを家族で楽しむことができていた。
- ・宿泊者の夜間イベントとして、3つの活動を準備した。3つ活動を準備することで、家族で好きな活動を選択し、時間を持て余すことなく楽しく過ごすことができた。特に本施設で活動するボランティアが中心となったハロウィンOLでは、ボランティアが企画、運営を行ったが、リーダーを中心として準備を進めることでボランティアの参画意識を高め、達成感を感じることができていた。

### ③課題

- ・本年度2回目となる事業ということで、昨年から比べると企画、運営がスムーズに行えた。継続することを踏まえ、他施設の運営方法を参考しながら、よりよい「花山らしさ」を作っていく。
- ・多くの体験コーナーを設置したところ、好評を得ることができた。今年度の準備、運営の状況を踏まえ、設置コーナーを検討していく。
- ・宿泊にあたっては全体インフォメーションを行ったが、宿泊室の清掃が徹底されなかった。今後の家族利用も考え、ポイントを押さえた宿泊のルールをわかりやすく伝えることが必要である。
- ・宿泊体験は非常に人気があり、定員を超える申し込みがあった。申し込みがFAX、WEBとであったため、受付が煩雑になった。係内で対応を統一し、申込から受付までの流れをよりスムーズにしていく。

担当：企画指導専門職 奥山 洋